

# 立川

1

立川と語ろう 立川に生きよう  
January 2009  
écoutez bien Vol.27 No.290



表紙の人／内田絵子(錦町) 写真／細江英公





# 初春のめでたさを味わう



ゆく年と来る年をわける除夜の鐘。年中無休のお店ができて、お正月らしさがなくなると言われることもしばしば。でもやっぱり元旦は、大晦日とはちょっとちがう。せわしなさが抜けて、ゆったりと時間が流れる感じがいい。おだやかに初春のよこびが漂っている。

そこで今回は「初春の和会席」。立川駅北口近くにある若草茶屋の板長が、福を呼ぶ「ふぐ」を取り混ぜて腕をふるってくれた。ふぐといえば、これ。薄く花びらのように見える「ふぐのてっさ」。淡白で、歯ごたえのある白身の旨さを堪能してもらおう一品。大皿に美しく盛られていると見た目には豪華だが、遠慮する人の口には入らない。若草茶屋では一人前ずつ盛ってくれるので、ゆっくり頂ける。

三段重ねの器には、一の膳に「おせち」。〈よろこぶ〉と〈子孫繁栄〉を願って「子持ち昆布」。黄金になぞらえた「栗」、まめに

働きまめに暮らすの「黒豆」に、長いひげで長寿を願う「海老の焼き物」。先を見通す「蓮根」がおめでたい。

二の膳に「穴子とかにのちらし寿司」。甘くなくさっぱりと煮た穴子とかにがびしりとご飯の上に並べられる。コロコロといくらのしょうゆ漬けが宝石のよう。三の膳には「ふぐの唐揚げ」。ぜいたくな盛りがお正月らしさをアピールしている。

「初春の和会席」がおせち料理と違うのは、生のおいしさを存分に味わってもらえること。尾やヒレをピンと立てて美しい姿を見せているのは、天然の鯛。天然ならではの風味を、見た目にも舌でも味わってもらいたい。

忙しく、時間に追われる毎日。年の初めくらいはゆったりと、家族や友だちとおいしい料理に楽しい会話で過ごしたい。ほっこりした日だまりのような温かい時間もくれる和会席。大人も子どもも、囲めば笑顔の年の始まり。本年もどうぞよろしくお祈りします。



# “葉っぱの精神”を伝える



ようが か  
葉画家

## 群馬 直美さん

■群馬 直美(ぐんま・なおみ) 群馬県高崎市生まれ。東京造形大学 絵画科卒業。大学在学中に街路樹の新緑の美しさに癒され、葉っぱをテーマにする創作活動に入る。1991年、緻密な描写のできるテンペラ画と出会い、原寸大で見たままに描き尽くす独自の作風にいたる。各地で個展、ワークショップを開催し、広く「葉っぱの精神」伝道者として活動している。著書に「アーちゃん 神様がくれたお友達」(燦葉出版)、「木の葉の美術館」(世界文化社)、「木の葉の宝石箱」(世界文化社)、「街路樹 葉っぱの詩」(世界文化社)。

■清水 恵美子 / えくてびあん & 多摩てばこネット編集工房

於：立川市富士見町 石田倉庫アトリエ 写真：五来 孝平

**清水** 昭和記念公園花みどり文化センターで、「葉っぱの詩」展 PART2 が開催されるんですね。

**群馬** そうなんです！ 12月17日から平成21年2月15日まで。

**清水** 今回のテーマは「いのちのいろ」。どうして「いのちのいろ」なんですか？

**群馬** 先日のアトリエ展が「みんなのいろ」だったんです。最近野菜を描き始めたんですが、小麦を描いている時に事典で小麦について調べたんです。小麦って世界の主要穀物の1位なんですよ。ああ、この小麦が私たち人類を支えてくれた、命の源なんだなあって思ったら、ドキドキしてきた。

**清水** 描くのは難しかったでしょう？

**群馬** 小麦は描くには面積が狭い。細い小麦の茎を描いていると、光の当たり具合で色が七変化！ この小麦の持っている実体の色は

何色なんだろうって思いながら描きました。

**清水** それで「命」の「色」。

**群馬** 葉っぱが地球の命の源だとすると、野菜は私たち人間の命の源。野菜だけでなく結局は葉っぱもそうかなと思って、総称して「いのちのいろ」というタイトルになりました。

**清水** 今回の展示には、混沌時代の立体作品「過去の森」もあるそうですね。

**群馬** 大学3年の時に作った「世界で一番美しいもの」という作品があって、私はもうこれ以上美しいものはないと思っていたのに、学園祭で発表したら、友達に気持ち悪がられたり子どもに泣かれたりして……。

**清水** その作品を今回展示するんですか？

**群馬** そのもの自体はもう捨てられてこの世に存在しないので、それに近いもの。気持ち悪くはないけれど、過去の混沌さを表したものを展示します。

**清水** そのものは本当に「世界で一番美しかったんですか？

**群馬** はい。

**清水** まだ学生だったから、技術的に劣っていたとか……(笑)。

**群馬** いえ、完璧です(笑)。たとえて言うなら、普通に美しい花ではなくて、お花でも朽ち果てても美しい。表面的なことを追わずに、内面を追ったらそうだったんです。でも、周りの反応で自分の感覚が、世の中とズレているんだと感じました。そう感じ始めたら、作品が作れなくなり感じる事ができなくなりました。苦しかったですね。

**清水** そんな時に葉っぱに出会ったそうですね。新緑の輝きに深く癒された。葉っぱ以降、美しいと感じるものが違うのですか？

**群馬** いえ。同じです。だから何年前にまた苦しい時期があって。街路樹の本を描く前。自分は、他の人との感覚のズレ、世の中とのズレを埋めよう埋めようとして一枚の葉っぱを丹念に克明に描いていた。描けば描くほど、そのズレは深まるばかりだと更に苦しくなりました。結局何をやってもズレているんだと、最近思うようになりましたね。でも、そのズレこそが神様からのプレゼントだったんです。

**清水** ズレているというのは錯覚で、もしそう感じるとしたら、周囲より速い。先を行っているのでは？ 時代の最先端に行く人は、その時は理解してもらえないけれど、時代が進めばわかってもらえる。だから今になってブレイクしてきたのではないかしら。

**群馬** そうかもしれない。数年前に、人間の命には限界があると感じたんです。この世に生を受けて、私は今まで何をやってきたのか。ふと人生を振り返った時、何もやっていないような気がした。なおかつ命には限りがある。葉っぱの絵でもっとみんなを豊かにすることができないんじゃないかと真剣に考えた。それはすごく苦しくて、自分には何もできないんじゃないかと思ったりもしましたが、ふと葉っぱとの出会いの瞬間を思い出して、そうだ、誰でもできる葉っぱの絵の開発だ！ と。そ

の方法を編み出した直後、世田谷美術館からワークショップ講師というお話をいただいたんです。

**清水** それもう3年……。毎年60人の方に教えているんですね。

**群馬** 教えることは教えられること。人は人によって磨かれるんだなあって実感しています。

**清水** 以前、街路樹の本ではじけたっておっしゃっていたことがありますよね？

**群馬** 街路樹は街があって成り立つ木。高いビルとかマンションとか、道路標識とか信号とか、そういう並木風景ばかり歩いた後で新宿御苑の有名なすずかけ並木に行った。すごく立派な並木でしたが、背後に街がなかった。それを見た時、私の目の筋肉が総動員で「もっと街並を！」と訴えかけてきた(笑)。

**清水** 街路樹にはごちゃごちゃした街並が必要なんですか。

**群馬** そんな街並の中で木は幸せなのかとも思っていたけど、建物のタイルを一枚一枚鉛筆で描いているうちに、作った人の愛を感じてきたんです。葉っぱは神様の愛で、街は人の愛でできている！ と思ったら、木にとっては過酷な環境であるかもしれない街だけど、たくさん人の愛に囲まれた街路樹は、そして自分は、なんて幸せなんだと涙がでてきた。

**清水** 街のことをそんな風に聞いたのは初めてです。

**群馬** 街はたくさんの方が関わってできている。街路樹を描き東京の街をひとつずつ訪ねながら、私は決してひとりではないと思いました。よく人間はひとりで生まれてひとりで死んで行くというじゃないですか。妙に寂しい思いになりますよね。街を歩いて、街路樹の本を描き終わった時、人間はひとりではないと実感しました。ひとりでは生きていけないですよ。生まれたときからすでに、ひとりで生まれてくるなんて、あり得ないと思います。

**清水** そうですね。で、使命に気づいた？

**群馬** そうそう。さっきの話に戻りますが、自分自身が絵を通してできること、伝えられることがたくさんあるんだということに気づいたんです。

**清水** それはどういうこと？

**群馬** 葉っぱとの出会い、新緑の輝きがすべて。要するに、

あの輝きの美しさを絵によって表現することだけを求めているのではなく、あの時に私が得た感覚をみんなに伝えること。あの感覚とは深く癒された、頭の芯がすっきりするような。自分自身は自分自身のままであっていいんだよという。ほっとする感覚。一枚一枚の、ひとりひとりの命の輝きの感覚です。

**清水** “葉っぱの精神”。ですね！「この世の中のひとつひとつのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である。By Naomi Gumma」

**群馬** そう。絵を通して、またワークショップやお話、文章やダンスもそうです。そういったものを通して伝えていくのが、私が命をいただいてできる仕事ではないか。本当は世界の果てまで行って気がつくことなのかもしれないけれど、私は東京の街を歩き回り、街路樹を描きながら気がついたんです。

**清水** 気づく気になったら、どんなことでも気づきの対象になるのかしら。

**群馬** どんなものにも、それは潜んでいるのでしょね。葉っぱの絵を28年も描いていると、常に常に何のために描いているのか、何ができるのか、伝えられるのかって考える。描くことは考えること。考えることは愛なんです。

**清水** なるほど。

**群馬** 葉という字は、草冠に世界の世と書いて、木と書く。ということは、ご存知でしょうが(笑)、要するに草の冠をかぶった世界を木が支えているんですよ！ 黄金の冠じゃなくて、草の冠ってところがポイント。

**清水** それも群馬さんが気づいた話？

**群馬** 昨日、気がついた(笑)。葉っぱはやっぱ偉大です。

**清水** 地球はやっぱ緑に覆われていないと。

**群馬** そうですよ。葉っぱの葉の字は哲学ですね！



まごころ銘茶 狭山園	527-0146
羽衣町	
ギリシャ料理 SHUPOUL	519-3923
美容室 ヒロイン紅	526-0018
蕎麦処 かめ井	524-8101
お好み焼きともんじゃ焼 こけし	526-1267
めぐね・とけい・補聴器 カワハラ	525-4427
鳥料理 くし秀	522-7692
ちゃんぽん さがや	523-8057
御菓子司 やな瀬	522-3969
宮地楽器 MUSIC JOY 立川南	526-1779
中国料理 五十番	522-7472
手づくり味噌の材料専門店 北島こうじ店	524-3190
new gyoza1059 餃子天国	526-2283
イタリアンダイニング asa	529-5668
ワインバー バルアラディ	523-3917
テーブルウェア H.works	521-2721
カフェ CAFE SOMMEILLER	527-1440
手うち蕎麦 なかさ	524-5758
中国気功整体院 立川院	529-1088
焼きたてパンの店 ヴァイツェンプロト	527-2176

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう  
えくてびあんは  
リストのお店にいつもあります

今月は 羽衣町・錦町のお店です。

日本クッキングスクール	522-3440
ラーメン屋 麺や光	525-5539
立川錦郵便局	523-2005
ザ・クレストホテル立川	521-1111
美容室 アリス	525-1100
パンと洋菓子 うちのやブルマン	524-9280
そば処 そば菜	522-7558
画廊 無門庵ギャラリー	529-2323
美容室 FALCO	528-2389
諸官公庁御用達・日用雑貨 池田屋	522-3731
N HAIR WORLD	523-5336
しゃぶしゃぶ・鍋料理 しゃぶ・りん	527-2228
スペイン料理 TAPAS	529-0733
Bakery Cafe Crown	526-2226
三田花店本店	524-4187
いわさき痛みの整骨院	529-5123
(有)朝日屋酒店	525-6333
にしやま薬局	525-9212
パスタの店 パセリ	525-8486
アミューたちかわ	526-1311



# お出かけは 自転車タクシーに乗って

冬の日の 小春日和は エコ日和

立川名物「SMILE TAXI」。  
風船をつけていたり、パホパホというクラクション、  
〈ひとり遊園地風〉装いがおしゃれな自転車タクシーだ。

写真：五来孝平



「車椅子代わりに使ってもらいたい」——そのため  
にステップも低くして、乗り降りが容易にできるよう  
自分たちで設計した。小型の車両は小回りがきき、  
自動車では入れないようなところまで行ってくれる。  
ひきこもりがちになってしまうお年寄りの気分転換  
に、ゆっくりと街を散策させてあげられないか……  
そんなところから始まった自転車タクシー。重いもの  
やかさばるものをちょっと運びたいとき。駅からタク  
シーに乗るには近すぎる距離。そんな時にも飛んで  
きてくれるのがありがたい。

そのおしゃれな姿に、停まればすぐに始まる「撮  
影会」。イチョウ散る街角は、立川なのにパリのよ  
う。見ているだけでも楽しくなるが、乗ってみると  
これまたもっとおもしろい！ 車道に出る時はちょっとド  
キドキ。出てみると意外にウキウキ。いつも通る道  
も、視界がちがってとても新鮮。「こんなところに  
こんなものがあつたの?」「ここってこうなっていたの!」  
と驚きの連続。

パホパホとクラクションを鳴らすドライバー。客席  
にもついているクラクション。一緒に鳴らせば、つい  
口に出て来る「こんにちは〜」の言葉。行き交う人も  
笑顔で足をとめ、お店の人は手を振って応えてくれ  
る。幼稚園では大人気。みんなを笑顔にしてくれる、  
不思議な乗り物。初乗りは500m、300円。  
どうぞ、おためしあれ。

街中が笑顔になるよ SMILE TAXI  
NPO法人 スマイル  
立川市高松町1-21-15 TEL 042-526-7348





立川の話題いっぱい！  
わたしとあなたとたちかわを結ぶ街ナビネット  
多摩てばこnet  
www.tamatebakonet.jp/

おとや「音楽屋元就の多摩てばこラジオ」  
FMたちかわ FM84.4MHzで放送中  
毎週日曜日 AM11:00～11:30

常楽我浄  
真如苑提供番組くじょうくがじょう

スカイパーフェクTV 216ch  
マイテレビ 11ch  
放送時間については番組表をご確認ください。

立川に育てられて七十三年  
真如苑  
柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)  
www.shinnyo-en.or.jp

ValueUp

「お客さまの声」は、たましんの力。  
たましんは、お客さまとともに価値を創造し、夢を実現してまいります。  
たましんホームページ <http://www.tamashin.jp>  
たましんにご相談ください。78店舗の窓口や約500名のお客さま担当が、お客さまの声にお応えいたします。

大廣社は今、「知的集約」型企業を実践しています。

先進のシステムと最新技術との融合

株式会社 大廣社  
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13  
tel. 042-527-1913 fax. 042-527-1949  
E-mail info@daikousya.jp  
<http://www.daikousya.jp/index.html>

えくてびあん流

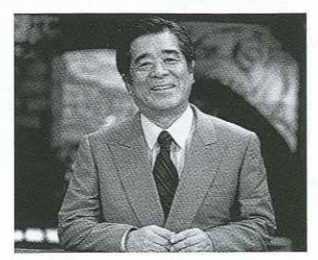
## 第7回 応現院文化講演会 開催

応現院文化講演会実行委員会では、真如苑の寺院「応現院」を広く一般市民の文化交流の場として利用してもらおうと、「応現院文化講演会」を開催している。第7回 応現院文化講演会は2009年3月7日。元NHKキャスター 松平定知氏を講師に迎え、「私の取材ノート」と題してNHK番組「その時 歴史が動いた」について語ってもらう。松平定知氏は1944年生まれ。1969年にNHKに入社してから2007年に退職するまで、「連想ゲーム」「日本語再発見」の司会、「夜7時のTVニュース(19時ニュース)」「朝7時のTVニュース(モーニングワイド)」などNHKの顔として活躍。担当した「NHKスペシャル」は100本以上にのぼる。現在も「その時 歴史が動いた」(毎週水曜/夜10時～)、「藤沢周平を読む・用心棒日月抄」(毎週火曜ラジオ深夜便0時25分～)で活躍中。早稲田・立教大学大学院 客員教授でもある。

聴講希望の方は下記応募要項により往復はがき、もしくはインターネットでお申し込み下さい。

**第7回 応現院文化講演会**  
「私の取材ノート」  
—「その時 歴史が動いた」の現場から—  
松平定知氏 (NHK「その時 歴史が動いた」キャスター)  
日時：2009年3月7日(土) 午後2時開演  
午後1時30分開場 講演は約90分  
会場：応現院 3F  
主催：応現院文化講演会実行委員会  
協力：株式会社精神文化映像社、えくてびあん、多摩てばこネット  
協賛：真如苑

【申込】①住所・氏名・年齢・電話番号・希望人数(本人を含めて2名まで)を明記し、往復はがきにて申込先に郵送。②インターネットの申込フォームにて申込。携帯サイトでも可。 <http://www.bunkakoenkai.jp/>  
【申込先・お問い合わせ】 応現院文化講演会実行委員会事務局(えくてびあん内)  
〒190-0012 立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F 電話 042-523-9898  
【締切】2月20日(金) 必着 定員は700名 申込み多数の場合は抽選になります。



この人この店 66

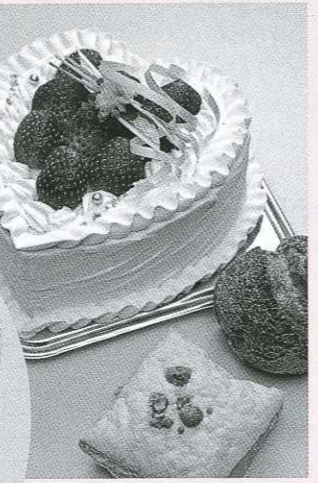
## お菓子工房 ティーコジー

オーナーシェフ 滝澤幸治さん

立川駅南口から近くもないけれど遠くもない、そんなところにあるケーキ屋さん。背が高く、笑顔がとてもすてきな滝澤さんのお店です。シェフはもちろん、工房でケーキをつくる職人さんたちが交代で接客してくれます。だからお菓子の説明はとてもいい。根強い人気の「チーズスティック」はココのあるクリーミーな焼き菓子。注文を受けてからカスタードクリームをつめてくれるシュークリーム。パリパリした厚めの皮とカスタードクリームが混ざり合って、満足感たっぷり。これが軽～いパイ皮になると、まるでできたてミルフィーユ。ピンクのクリームがかわいらしいイチゴのデコレーションケーキ。切るのがもったいない～と言いながらナイフを入れると、ふわ～とイチゴの香りが漂います。やっぱりケーキの基本はこれです！でも、この「もちクリーム」。なんてホワホワなの～！口に入れたら、溶けちゃった！

〒190-0023 立川市柴崎町 2-10-14  
TEL 042-525-6366  
FAX 042-525-6376  
営業時間 8:00～21:00  
年中無休

写真撮影：富士見



# みどり巡り花めぐり

街の緑・街路樹 ③

## ケヤキ

緑花文化士 森江晃三(イラストも)



立川駅前のケヤキ並木

小学校が国民学校と呼ばれていた戦時中、たぶん5年生用の国語の教科書に朝鮮半島の田舎の風景が描かれていました。寒い冬の夜、満天の星の空に葉を落とした櫟が、まるで箒が天を掃くように風になびいていて、明かりの漏れる家からは砦を打つ音が聞こえて来るといったものでした。都会のなかに住んでいて、大きな櫟など見たこともなかった私ですが、この文の風景が見たことのある映像のように、いつまでも心に残っています。

ケヤキ(学名 *Zelkova serrata* Makino)は中国、朝鮮半島、日本では九州、四国、本州に分布しますが、庭木や街路樹、公園樹としてよく植えられています。各地に古木があり、府中の大櫟は国指定の天然記念物ですが、ちょっと痛々しい姿になっています。また立川市やお隣の小平市の「市の木」になっています。関東ローム層の土地にはよく育ち、農家の屋敷林としてもよく植えられて、夏の強い陽ざしを防ぎ、落葉は堆肥に利用されていました。櫟は榎(あるいは榎の木)とも呼ばれていて、材は堅く木目が美しく、建築材や家具、彫刻材などいろいろに利用されています。

ケヤキというのは「けやけし」という古い言葉が基のようで、「けやぐ」あるいは「けやけし」というのは優れている、優れて見栄えがよいという意味で、植物学者・牧野富太郎は顕著な木という意味だと唱えています。一般にはその木目の美しさによると考えられています。

春に目立たない小さな雌雄異花の花をつけますが、普通はせいぜい雄花が落ちてるので知るくらいです。秋、熟した小さな果実は短い小枝とともに風に飛ばされて、その子孫を拡げます。

木偏に挙げるという櫟という字は、中国では別の植物の名前だそうですが、冬空に精一杯に手を上げているように立つ樹形は寒い季節、私たちに元気を与えてくれます。

information

- 緑花文化士は、毎年11月に行われる「緑・花 試験(緑・花文化の知識認定試験)」で優秀な成績をとられた方に贈られる称号です。同試験や緑花文化士について詳しいことはホームページ <http://www.midori-hanabunka.jp> で。
- 国営昭和記念公園 花みどり文化センターでは、緑花文化士による「緑・花文化を楽しむ講習会」や展示会が開催されています。2009年1月は12日(月)に鈴木 泰さんを講師に身近な自然である庭をテーマにした「花の庭の文化史」、18日(日)は津田幸彦さんを講師に「植物の名前の調べ方」を予定。詳しくは国営昭和記念公園花みどり文化センター(電話：042-526-8787)までお問合せ下さい。

表紙の人

## 内田 絵子さん(錦町)

夫の仕事の関係で住んでいたシンガポールで乳がんの摘出手術を受け、帰国後、自らの体験をもとに、患者の立場から乳がんの早期発見、治療の質の向上を医療・行政に働きかけるために、患者団体「NPO法人 ブーゲンビリア」を立ち上げ理事長に。活動は10年を超え、2008年1月には立川で第1回アジア乳がん患者大会を開くまでになった。地元立川で移動マンモグラフィー検診を行ったり、講演会など多忙ななか、女性としての健康と生き方に積極的に取り組む人の輪を広げている。

錦町ご自宅で 写真：細江英公

かたこと

明けましておめでとうございます。2009年平成21己丑年のお慶びを申し上げます▼本号をお手にされるのは年末、それとも年明けの松の飾りを見ながらでしょうか▼ほんの数日の違いなのに新年になったとん全てがあらたまって感じられるから不思議です▼えくてびあんも1月号。大きく何か変わったわけではなくても、つくる側もピンと背筋を伸ばしてあらたまった気持ちになります▼表紙は、はつらつとした内田絵子さん。こちらまでエネルギーをいただくようです▼対談は葉っぱを描く<葉画家>群馬直美さん▼「この世の中のひとつひとつのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」—モットーである<葉っぱの精神>は、真冬の寒々としたなかの温もりのように心に沁みます▼寒いなかでも楽しく外へ！VIEWは立川の街を走るおしゃれでカラフルな自転車タクシー「スマイルタクシー」。立川の新しい名物として親しまれそうです▼「えくてびあん」は2009年7月号をもって創刊25周年を迎えます。四半世紀の歴史は立川の街と人に支えられた軌跡。ご愛読、応援に深く感謝し、いっそう皆さまに親しんでいたけりようがまいります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。(芳)

スタッフ

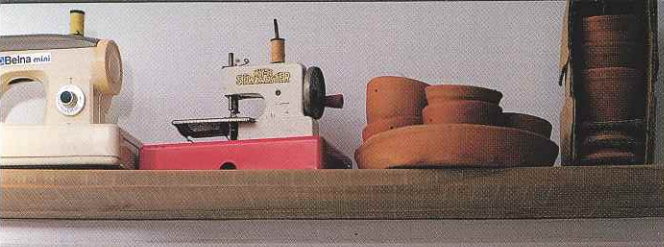
編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子  
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 五来孝平/富士見

えくてびあん(C) 1月号

第27巻 通巻290号  
平成21年1月1日発行  
発行 えくてびあん編集部  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 黒須 環  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。





# さとう その子の アート気分

最終回



【まどから1】

引っ越した頃はすっきりしていたのに、暮らしているとモノが増えて…でも窓からの光がきれいなのは変わりません。朝起きてカーテンに外の緑が映っていると「ああ幸せだな」って。光、鳥の声、風の音、木の葉、どれも一瞬も同じじゃない。いつも動いている。動きながら季節がめぐっている。[まどから]は真四角の木を並べた大きな画面に描いたこの窓からのイメージ。色はそれぞれつけましたが、ひとつひとつも、合わせた全体も、ぜんぶ私のお気に入りの窓。

【まどから2】



写真：五来孝平